

# 熊本の病院・臨床研修病院、新病院長の紹介

## 山都町包括医療センター そよう病院

院長 山下 太郎



山都町包括医療センターそよう病院院長に、令和二年四月一日より就任致しました山下太郎と申します。どうぞ宜しくお願い致します。私の生まれ育った阿蘇郡西原村河原は、以前上益城郡に属しており、また、当院の位置する蘇陽地区は以前阿蘇郡に属しており、上益城郡山都町と当院には深い縁を感じております。

私は、平成三年に熊本大学を卒業し、当時荒木淑郎先生の主宰されていた第一内科に入局し、その後、同教授の安藤正幸先生、脳神経内科教授の内野誠先生にご指導頂いて参りました。熊本大学大学院では、家族性アミロイドポリニューロパチー（FAP）の研究と診療で、現在も世界的に活躍されてい

ます、現在長崎国際大学学長の安東由喜雄先生にご指導を頂きました。安東先生が脳神経内科教授に就任された際には、アミロイドーシス診療体制構築事業、そして、神経難病診療体制構築事業の特任教授に任じて頂きました。安東先生退官後の一年間、脳神経内科の科長代行を務めさせて頂いたときに、当時熊本大学病院長だった谷原秀信先生よりご推薦を頂き、現在に至っております。同門の先生方をはじめ、教員会の皆様、これまでご指導頂きました先生方に深謝致しております。

山都町は、旧矢部町と、清和村、蘇陽町が平成十七年に合併して誕生しており、熊本県の西端に位置し宮崎県五ヶ瀬町と接しております。当院は、標高五百五十五m高地に位置するため、日差しは強く感じるものの夏は涼しく、冬の雪は美しく、周囲には多くのキャンプ場や、幣立神社、清和文楽館、通潤橋などの施設も存在する、自然と歴史遺産に恵まれた地域です。

当院は、山都町唯一の公立病院、上益城郡唯一の救急告示病院、県内三箇所

の僻地医療拠点病院の一つとして、地域に根ざした医療機関としての医療サービスを提供するだけでなく、国民健康保険診療施設（国保直診）として、医療に加えて保健（健康づくり）、介護、福祉サービスまでを総合的、一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点として活動しております。山都町唯一の訪問看護ステーションも有しており、また、当院が持つ付帯施設である、北部へき地診療所、緑川へき地診療所、井無田へき地診療所における無医地区診療も行っています。当地域における特別養護老人ホームへの嘱託医、地域の保育園、小学校、中学校の学校医も務めております。

当院の病床数は五十七床で、令和二年度の病床稼働率は七〇・四%、平均在院日数は二〇・八日、救急車受け入れは年間二百十台、透析患者数は十床で年間三千九百三十二人でした。

常勤医は四名で、さらに、名誉院長の水本誠一先生や、熊本大学病院の地域医療支援機構や、熊本県のへき地医療支援機構からの支援、熊本大学病院などからの研修医の派遣により、内科、外科、総合診療科、脳神経内科、消化

器外科、整形外科、循環器内科、代謝内科、眼科、神経精神科、歯科口腔外科などの診療を、山都町だけでなく、近隣の高森町、五ヶ瀬町、高千穂町からも来られる患者様に提供させて頂いております。

昭和二十二年に開設された当院を発展的に継承し、地域医療を担いながら、人材の育成にも努力して参りたいと存じます。今後ともご指導、ご支援の程、どうぞ宜しくお願い致します。

